第85号
2022/6

PVかながわ ニュースレター

News

3年ぶりに開催の横浜開港祭に出展
～ソーラーバッタ・ワークショップ開催～

第41回開港祭は、コロナ蔓延の影響により3年ぶりで6月2日と3日の開催だったが、多くの人出を期待して花火大会の6月2日に出展した。この日は横浜市の小中学校は休みで、晴れれば多くの子供たちの参加が期待できた。

PV-Net神奈川としては、長期コロナ自粛後で十分なサポート体制が確保できず、「ソーラーバッタを作って、遊ぼう！」だけに集中することにした。一人が受付担当、一人がバッタの作り方説明、一人が作り方の補助とスタッフ3人が最低の人数だ。「手回し発電機でドン！」まで出展できる人数の確保はできなかった。ソーラーバッタ・ワークショップは、小学生の子供たちに太陽光発電に触れる機会を提供し、バッタを持ち帰って家族でエネルギーについて考えてもらうのがこの企画の主旨である。

朝9時集合、2時間の準備作業の後、11時から15時まで5回のワークショップを実施した。参加料は600円で、今回はテントが小さいため一回当たりの人数は最大7名、トータル35人が参加可能で全回とも満席であった。

テントの位置は道路から離れていて余り良いとは言えず、それでも満席だったのは、太陽電池で回転のお花の形に見える8本のファンからなる「ソーラーお花畑」（左の写真）の効果と思われる。相変わらず、開港祭は暑い1日で、受付担当もてんてこ舞いだった（左の写真）。ワークショップ（下の写真）は毎回30分程度で終了するが、工作中に線を切ってしまったり、不良品も多く、完成後に太陽の当たる場所に持って行き、歓声を上げる子供がいる一方、ガッカリしてしょぼんとする子も結構いて、スタッフが動作品と交換して喜んで帰ってもらった。　（田辺記）

世話人から

連絡事項

先日の「フォーラムかながわ」資料をホームページに掲載いたしました。また、当日、時間の関係で扱えなかった質疑も、ご講演者から回答をいただき掲載しておりますので、ご覧ください。フォーラムに参加されなかった方も歓迎です。

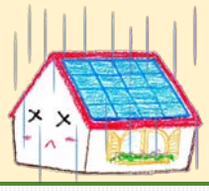
以下のリンクよりアクセス可能です。

http://pvkanagawa.livedoor.blog/archives/10043647.html

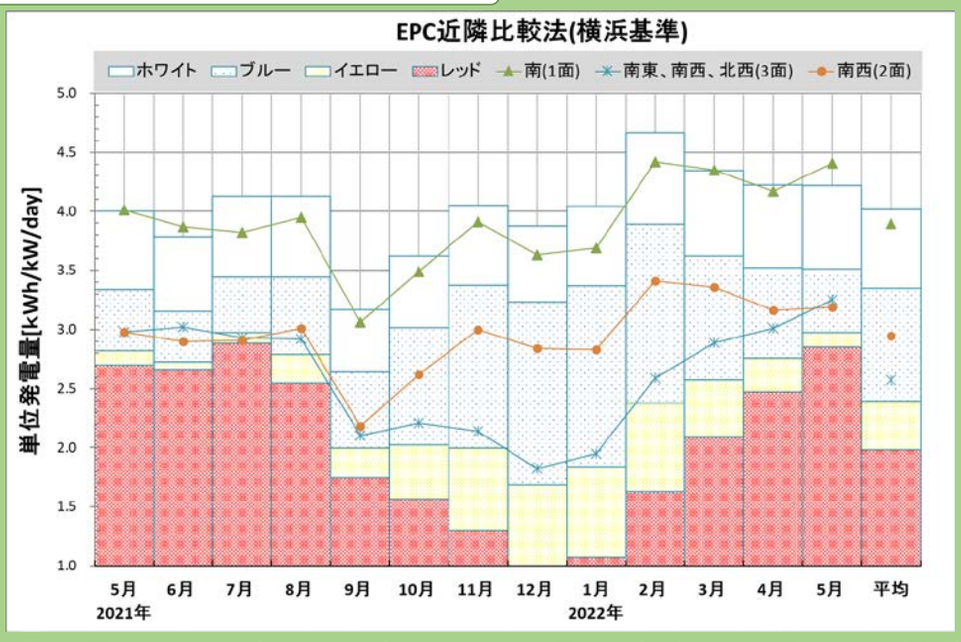
今後の予定

「YES環境教育出前講座」
ストップ温暖化！
～私たちに何ができるか～
ソーラーバッタワークショップ
6月12日（日）10:00～11:30
横浜市野七里地域ケアプラザ

「さがみはら環境まつり」出展
「地球温暖化〇×クイズ」
を実施(事前申込制)
6月19日（日）14:10～
会場:ミウイ橋本5F
インナーガーデンスステージ



今月の単位発電量！



横浜の日照時間は平年値−4%となりました。気象庁によると5月は「北・東・西日本では、北日本を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かったが、東・西日本太平洋側を中心に本州南岸付近を通過した低気圧や前線の影響を受けた時期があった。26日から 28日にかけては日本海から北日本付近と本州南岸付近を東進した低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で大雨となった所があった。月降水量は西日本日本海側でかなり少なかった一方、東日本太平洋側で多かった。月間日照時間は東日本日本海側でかなり多かった一方、沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすく、曇りや雨の日が続き、月降水量は平年比 287%、月間日照時間は平年比50%で1946年の統計開始以来、5月として1位の多雨・寡照となった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。
平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。
※近年の太陽光システムは均質化や効率改善が進み、2000年初頭の物に比べ、実発電量が10%以上多くなることもあるので、補足としてホワイトを設けました。